

配管クリーン作業手順の変更のお知らせ

はじめに

DFL7161のメンテナンスマニュアルに記載されている「配管クリーン」の作業手順が変更になりましたので、変更された作業手順をご連絡します。

対象装置

対象機種	メンテナンスマニュアルの記載項
DFL7161	E 章 1-4 項

変更内容

コーティング機能を長時間使用しない状態で放置すると、保護膜溶液が配管内で凝固し、機械の故障、または加工不良の発生につながるおそれがあります。

本機を長時間使用しない場合は本書の手順に従って、「配管クリーン」を実行してください。

→作業手順については添付資料を参照

機械状態	従来	変更
コーティング機能を長時間使用しない場合の機械の保管状態	配管クリーン後は、機械配管内に純水を充填して保管	配管クリーン後は、機械配管内の純水を機外に排水して保管
コーティング機能を使用しない期間による作業項目	<u>2週間以上</u> 使用停止前に配管クリーンを実行	<u>2日以上</u> 使用停止後にノズル清掃を実行 <u>2週間以上</u> 使用停止前に配管クリーンを実行
純水使用量	0.5 L	1.0 L

お問い合わせ

本件についてのお問い合わせは、ディスコ営業担当、またはサービス窓口までお願いいたします。

1-4. 配管クリーンの実行（コーティング）

コーティング機能を長時間使用しない場合

コーティング機能を長時間使用しない状態で放置すると、保護膜溶液が配管内で凝固し、機械が故障する原因になります。コーティング機能を長時間使用しない場合は、配管クリーンを実行して、配管内に残留している保護膜溶液を配管外に排出してください。

注 意

コーティング機能を2日以上使用しなかった場合は、使用を開始する前にコータノズル、およびタンクの吸引口を清掃してください。

保護膜溶液が固着しているおそれがあります。

コーティング機能を長期間（目安：2週間以上）使用しない場合は、使用を停止する前に配管クリーンを実行してください。

配管クリーンを実行しなかった場合、保護膜溶液が配管内で凝固し、保護膜溶液の塗布不良の発生、および機械部品の交換が必要になるおそれがあります。

通 知

純水を使用した溶液チャージの実行前に電極棒を清掃しないでください。

タンク内のセンサが正常な検知が行えません。



電極棒

作業の流れ

1-4-1

純水を使用した溶液チャージの実行



1-4-2

配管クリーンの実行


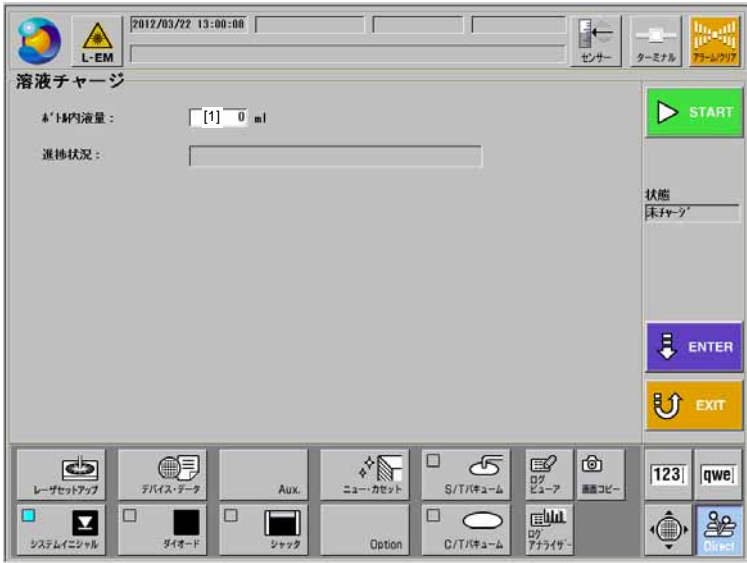
準備物

保護メガね、保護手袋

純水 (1 L)

1-4-1. 純水を使用した溶液チャージの実行

純水を使用した溶液チャージの実行手順

ステップ	手順
1	保護めがね、保護手袋を着用します。
2	純水を 1 L 入れたタンクを準備します。
3	保護膜溶液タンクからタンクキャップごと吸入用配管を抜いて、純水の入ったタンクに配管を挿し替えます。
	
4	トップメニュー画面 [0.0] で『F5』ボタンを押します。 ・オペレータメンテナンス画面 [5.0] が表示されます。
5	オペレータメンテナンス画面 [5.0] で『F1』ボタンを押します。 ・溶液チャージ画面が表示されます。
	
6	溶液チャージ画面の[1]に「1000」と入力します。

純水を使用した溶液チャージの実行手順（つづき）

ステップ	手順
7	<p>『START』ボタンを押して、溶液チャージを実行します。（1回目）</p> <ul style="list-style-type: none">・タンク内の純水が機内に送り出されているか確認します。 <p>→溶液チャージについてはメンテナンスマニュアル E 章 1-3-2 項 [マニュアル操作による溶液チャージ] を参照</p> <p><u>溶液チャージ実行中にエラー「E1273 タンク内液切れセンサ異常。溶液の量を確認してください。」が発生した場合</u></p> <p>このエラーはタンク内の残量を検知する電極棒が純水を検知できなかったときに発生します。</p> <p>エラーが発生したときは、吸入用配管を保護膜溶液タンクに戻して、保護膜溶液を電極棒に付着させてから、再度純水で溶液チャージを実行してください。</p>
8	<p>溶液チャージ終了後、再度『START』ボタンを押して、溶液チャージを実行します。（2回目）</p> <ul style="list-style-type: none">・3回以上の溶液チャージ動作は行わないでください。

作業は次項へつづきます

1-4-2. 配管クリーンの実行

配管クリーンの実行手順

ステップ	手順 (作業は前項からのつづきです)
1	溶液チャージ画面で『EXIT』ボタンを押します。 ・オペレータメンテナンス画面 [5.0] が表示されます。
2	オペレータメンテナンス画面 [5.0] で『F6』ボタンを押します。 ・配管クリーン画面が表示されます。 <div data-bbox="523 728 1273 1288" style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div>
3	純水の入ったタンクから吸入用配管を取り外します。 <div data-bbox="699 1366 1104 1904" style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div>
4	『START』ボタンを押して、配管クリーンを実行します。 ・機内配管の純水が機外に排出されます。

配管クリーンの実行手順（つづき）

ステップ	手順
5	<p>機械配管内に純水が残っていないことを確認します。</p> <p><u>配管クリーン実行中にエラー「E1290 ポンプ液切れセンサ異常。配管を確認してください。」が発生した場合</u> 配管内に純水が残っているときに発生します。再度配管クリーンを実行してください。</p>
6	<p><u>コーティング機能を再開するときは</u></p> <ol style="list-style-type: none">1. 吸引用配管を保護膜溶液タンクに接続します。2. 溶液チャージ画面を呼び出します。3. 『START』ボタンを押して、溶液チャージを実行します。 <p>→溶液チャージ画面については データメンテナンスマニュアルの B 章 4-6 項 [溶液チャージ画面] を参照</p>